



日本共産党・前都議会議員

そねはじめレポート

2012年 7月 18日発行 第 49 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel: 3907-1135

Fax: 3906-3225

さよなら原発で 17 万人が夜まで訴え

反原発10万人国民集会

集会後パレードのそね前都議と北区の参加者



◆34度の猛暑の中で

7月16日、午前11時ごろから次つぎと代々木公園に参加者が集まり、昼ごろには会場とその周辺がいつぱいになりました。

そねはじめ前都議や池内さおり衆院予定候補も思い思いのプラカードやデコレーションの老若男女とともに参加。北区の旗を見つけてあちこちから連帯の声がかかりました。

◆司会は神田香織さん

司会は北区在住の講師・神田香織さんで、次つぎと、大江健三郎氏や永六輔氏、落合恵子さん、内橋

政府を揺るがし、秋にもう一度

会場の外で話を聞く北区の参加者とそね前都議



克人氏、佐高信氏、坂本龍一氏、瀬戸内寂聴さんらが発言しました。

いずれも政府や原発推進者の宣伝を「国民だまし」の侮辱ととらえ、「物言わぬのは野蠻」との自覚を持つとうと訴えました。

◆政府の姿勢見極め再度

主催者からは「8月に出される政府のエネルギー政策の内容次第では、九月か十月にも再度集会を」と訴えがあり、たかいたかの継続を確認しました。集会後、2時からのパレードが17万人のため東京の参加者が動き出したのが5時ごろで3キロ弱に2時間以上かかりました。

浮間の水害対策で追加工事を求めて！

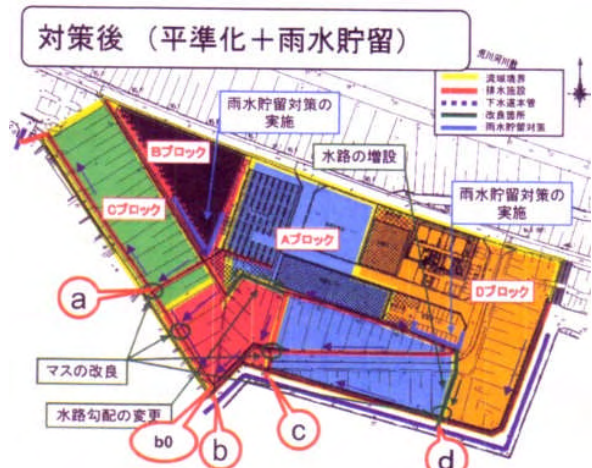
昨年夏スーパー堤防に降った雨で水害に会った浮間1丁目の高久さんほか住民有志とそねはじめ前都議、永井とも子区議とで7月13日に下水道局の西部第二事務所を訪ねました。

住民の繰り返しの要請で、スーパー堤防を管理する国土交通省荒川下流事務所は、5月30日に再発防止工事の住民説明会を開き、堤防東側に排水管を追加(右図 d)するなど対策を実施中ですが、住民は「昨年以上の雨が降れば全く安全の保障がない」と不安を抱えたまま。

■西側下水管の活用を求めて

今回は、殆ど活用されなかったスーパー堤防西側の下水管への雨水排出の可能性を探るためでしたが、都の羽田施設課長は「この下水管は0.5mの太さだが家庭排水などは入らず容量は十分。計画流量以内なら活用は可能」と答えました。

住民の皆さんは「水害当日は西側の管に大量の雨水は流れていかなかった。スーパー堤防から直接つなぐ排水管を設置させるなど追加対策をさせよう」と相談。被害補償や、堤防上の傾きを陸側でなく川側に流れるよう改善させるなど抜本策も改めて要求することになっています。



悪政許さず共産党を強く大きく!

* 7/11朝、北赤羽駅浮間口で永井区議と定例宣伝。浮間水害の被害住民の方も駆けつけてくれました。

* 7/12朝、駒込駅ガード下で本田区議と宣伝。私がまくより本田区議から何倍もビラを受け取っていく25年の定着ぶりに感心。

* 7/12午後から、のの山区議の区政報告会に池内・そねで参加。池内さんの気迫の呼びかけにこたえて共産党に入ってくださいの方が増えました。

その日の夕刻に、赤羽ららガーデンで宣伝と署名。年金者組合の方がカラオケ会の帰りに手伝ってくれました。

* 7/13朝は、王子駅南口で山崎区議、池内・そねとで活動報告。ビラを受け取る人がぐっと増えました。

* 7/13駅前宣伝の後、堀船の川沿いのテラスに通じる階段の手すり設置要望を受けて現地を調査。確かに風の時など危ないので早速交渉へ。

* その日の午前10時すぎ、都の下水道事務所へ水害問題で要望に。(おもて面の記事参照)

* 7/14午前、生活相談で桐ヶ丘のお宅へ。これからの建て替え事業をもっともっと知らせていかねば…。

* その夜は、浮間の党员のお宅で、党员の仲間を増やそうと懇談。長い活動の歴史を語り合ううちに夜が更けました。

* 7/15午後2時から永井区議の区政報告会。パワーポイントを駆使してわかりやすく議会報告。この日は区内の各地で党を訴えました。

そねはじめ奮闘記

* 7/16朝から北区の旗を準備して代々木の集会に。夜8時過ぎにクタクタで北区に帰宅しました。

* 7/17朝8時過ぎに自衛隊が「通信訓練」で区役所に乗り込むのに抗議。昨夜からの全都一斉の歩行訓練の一環で“治安出動につながりかねない”と報道したマスコミもありました。(下の写真)



そねはじめ交友録<その四十三>

NHK 早朝ニュースきっかけに四〇年ぶりに再会した人形劇団ぶらんこの寺尾さん

六月のある明け方、ふと目が覚めて何気なくつけたテレビのNHK ニュースに衝撃の映像が映りました。学生人形劇サークル時代、「就職しても人形劇を続けよう」と決意させたアマチュア人形劇団ぶらんこの寺尾さん夫妻が、東北の被災地宮古で公演するため練習している姿を報じたのです。「どうしてももう一度会って公演を見たい」の一念止み難く、ニュースで案内された六月末、新幹線と高速バスを乗り継いで昼過ぎに宮古に到着。仮設の市役所から福祉事務所へと訪ね歩き、ついにその日三時に、藤原小学校で公演があることがわかりました。藤原小は、津波が校庭まで来たものの建物は無事だったとのこと。前の川の橋は落橋したままでした。

舞台づくりに忙しい寺尾夫妻に挨拶すると、「あの北大童話研究会のかたですか」と懐かしそうに手を握り返しました。

当日の演目は、腹話術に続いて一人で二役を演じる人形劇の「トン吉とからす」。私が学生の時感激して、見よう見まねで演技を盗み、上京してからも地域サークルで真似事をしていた作品です。トン吉が苦労して刈り取った稲の束をカラスが盗みにやって来るので、トン吉が観客に「カラスが来たら呼んでね」と言って仕事に行くと、カラスがきて「トン吉」と叫ぶ観客に「何よ騒がしい! あんたたちトン吉のなんなのよ!」と七〇年当時流行った宇崎竜堂の言葉をもじって観客をおどしつけるのです。さすがに今回は「これがカラスの宿命なのよ!」と変わっていました。声色を変えて二役を演じる寺尾さんはとても七〇歳とは思えません。今でも遠くは大分まで招かれて公演に出かけるそうです。宮古と札幌の人形劇をつないだのは、北大のサークル後輩のIさんと聞いて、また人形劇への思いが膨らみました。

宮古の小学校で、講演の舞台作りをするぶらんこの寺尾さん。下は、トン吉とからすの上演風景

